

1 はじめに

本校では、教育目標「心豊かに健やかで、たくましく行動できる生徒の育成」の具現化を目指している。「総合的な学習の時間」の中で、職業について興味をもって調べたり体験したりすることを通し、一人一人が自分と向き合い、将来についてじっくりと考えることができる生徒の育成を目指している。本実践は、そのキャリア教育の実践として、2学年「職場体験学習」についてまとめたものである。

<本校の教育目標>

<本校の教育目標>

「心豊かに健やかで、たくましく行動できる生徒の育成」

2 指導案

(1) 単元(題材)「生き方を探ろう」～職場体験学習を通して～

(2) 目標

- 自分の目標とする将来の職業や進路、生き方について考え、そのために必要な様々な情報を収集し、知識を得ようとしている。
- 職場体験学習を通し、自分のよさや働くことの大切さについて気付く、将来の職業や進路、生き方について、自分の考えやめあてをもつことができる。
- 仲間や事業所の方と積極的に関わったり、職場体験を通して学んだりしたことを礼状や新聞、資料等に意欲的にまとめることができる。

(3) 指導にあたって

職場体験学習には、体験活動を通して、課題の解決の仕方を学ばせ、主体的に自己の生き方について考えていけるようにするという大きな目的がある。この活動を通し、生徒は、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、問題を解決する力などを育てることができ、将来の仕事について意識することができる。また、自分に合った職業を選択し体験するという活動は、自分を見つめ直し理解する上でも意義のある学習である。

そこで、本単元では、ひとつひとつの仕事が「何のために行われているのか」、また、事業所の方々は、「なぜその仕事を行うのか」を実際に職場に行って体験したり、インタビューしたりする活動を通して気付かせていく。そして、「人はなぜ働くのか」について考えさせていきたい。職場体験後のまとめの活動においては、グループ活動を取り入れてまとめたり、学校内や授業参観での発表会を設定したりすることで、様々な考え方や意見にふれられるようにする。また、働くことの楽しさや厳しさについて改めて知ることができるようにするとともに、勤労や職業について関心や意欲を高め、将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲や態度を主体的に学ぶことができるようにする。

「自分のよさを生かすことができたか」「新たな自分のよさに気付くことができたか」など、自己を見つめる時間もしっかりと確保し、自分に自信をもち主体的に考え行動する生徒の育成につながるようにしたい。体験を通して学ぶことのできる職場体験学習は、生徒が自己の

生き方について考えていく上でも有意義な学習活動であると考え本単元を設定した。

(4) 指導と評価の計画（全30時間）

時	おもな学習活動及び内容	評価規準及び評価方法
＜事前＞ 1～7	・ 職場体験について知る。 ・ 事業所を決める。 ・ グループを確認する。 ・ エントリーシートを作成する。 ・ 職場体験の心構えやルール交通手段などについて確認したり、挨拶や電話のかけ方などの練習する。	・ 自分の目標とする将来の職業や進路，生き方について考え，そのために必要なことを考えたり行動したりしようとしている。（トライアルハンドブック） ・ 職場体験に向けての自分なりの目標やめあてを考え充実した職場体験にしようとしている。（観察・トライアルハンドブック）
＜事中＞ 8～19	・ 2日間職場体験を行う。	・ 仲間や事業所の方と積極的に関わり，コミュニケーションを図ろうとしている。（観察・評価シート・トライアルハンドブック）
＜事後＞ 20～30	・ お礼の手紙を書く。 ・ 職場体験のまとめの計画をする。（本時：22/30時） ・ まとめをする。 ・ まとめたことを発表する。 ・ 単元のまとめをする。	・ 職場体験で得た様々な情報を整理し，見る人に分かりやすくまとめようとしている。（観察・トライアルハンドブック） ・ 新聞，資料等にまとめた内容を，相手に分かりやすく伝えようとしている。（観察・トライアルハンドブック） ・ 友達や事業所の方の意見，学習の成果を参考にし，自分の将来の職業や進路，生き方について考えようとしている。（ワークシート・トライアルハンドブック）

(5) 本時の学習

① 目標

- ・ 職場体験で学んだことを整理し，発表を聞いた人がよく分かるようなまとめ方について考えることができる。

② 準備・資料

- ・ トライアルハンドブック ・ ワークシート ・ 話し合いの手順
- ・ 付箋 ・ 画用紙 ・ ペン

③ 展開

生徒指導の機能を生かした手立てに関しては太字ゴシック体

学習活動・内容	活動場所 形態	教師の働きかけ ※評価 ◎個に応じた支援
1 本時の学習課題をつかむ。 ～人はなぜ働くの？～ 職場体験で学んだことを，発表を聞く人に分かりやすくまとめよう。 (1) 発表会について知る。	ホール 学年一斉	・ 共通理解を図るために，学年一斉で発表会についての確認を行う。 ・ 目的意識が高まるように，グループでポスターセッション方式で発表会を行うこと，1年生への発表会・保護者への発表

・いつ どこで 誰に どのように (2) 発表会までの流れについて確認する。 (3) 本時の活動について確認する。		も実施することを伝え、具体的な発表会の内容について導入で伝える。 ・主体的に活動できるようにするために、発表会までの日程や本時の活動の流れを知らせることで見通しをもたせる。
2 事業所ごとに分かれて話し合う。 (1) 店の紹介 (2) 主な仕事 (3) 学んだこと (4) 人はなぜ働くの？ (5) レイアウト (6) 分かりやすくするための工夫	各教室グループ	・事業所ごとに分かれて話し合う。 ・話合いがスムーズに行われるように、各教室に話合いの手順を掲示しておく。 ・自分の考えがしっかりと発言できるように前時に作ったワークシートを活用するように助言する。(自己決定) ・友達の考えを否定するのではなく良いところを認めていけるような雰囲気有话合いが進められるように支援する。 (共感的な人間関係) ◎同じ教室で体験した職場が違ふ場所でもいつでもお互いに相談ができるようにする。
3 他のグループのまとめ方の工夫について知る。 (1)自由に見学する。 ・よいアイデアには付箋に○ ・アドバイスがあれば付箋に書き込んで貼る (2)感想を発表する。	各教室一斉	・他の班の計画を見学することで、その良さに気づき、より自分たちの計画を高めることができるようにする。 ・まとめ方について良いと思ったアイデアには、付箋を貼るように指示し、他の班の友達からも称賛されるようにする。 (自己存在感) ・次時の活動が意欲的に行われるようにするために、感想を発表させたり、教師が良かったアイデアや取り組みを称賛したりする。(自己存在感)
4 分かりやすいまとめ方について、自分のグループで確認する。 ・レイアウトを工夫する。 ・学んだことを整理して伝える。 ・見て分かるように写真を活用する。 ・伝え方を練習する。	各教室グループ	・次時は、作業が始まることを知らせる。 ※職場体験で学んだことを整理し、聞いた人がよく分かるようなまとめ方について考えることができたか。(観察・ワークシート・付箋)
5 本時の学習をふり返り、次時の活動について知る。	各教室一斉	

3 資料

(1) 職場体験・・・令和元年9月5日(木)、6日(金)約30カ所での職場体験を実施

①小学校での体験の様子



<生徒のワークシートから>

○菓子工房での職場体験を終えて学んだこと
・積極的に仕事に取り組むことの大切さや元気なあいさつ、礼儀正しく話すことの大切さを学びました。実際に仕事を体験することで、自分に何が足りなくてどうすればよのかなど、必要なことが分かりました。笑顔を意識して働くことができました。

②菓子工房での体験の様子



○職場体験を終えて学んだこと
・普段何気なくしていたあいさつが、お客様と関わる時にとても大切だとこの体験を通して学びました。どんな仕事についても今回学んだことを忘れずに活かしていきたいです。あいさつは大切なので、これからも継続していきたいです。

(2) 職場体験発表会の様子



4 成果と課題

- ・身近な事業所を選択し活動することで、地域との連携が深まった。
- ・普段関わらない大人(事業所の方やお客さん等)や小さな子どもたちとの交流を通し、コミュニケーション力を伸ばすことができた。
- ・1年生にまとめた内容を発表する機会を設けことで、より目的意識をしっかりともち、資料を見やすくまとめる力を伸ばした。体験したことをより深める活動となった。
- ・1年生にとっても、先輩の活動を知り次年度への意欲につながった。
- ・人数の関係や日時の関係で、希望する事業所に行けない場合が出てきてしまう。
- ・地域とのつながりも大切にしたいが、生徒の希望する職種との関係で地域を離れてしまう場合もある。
- ・総合的な学習の時間を使い、子どもに電話をかけさせたいが、担当者が留守の場合などが多く、連絡を取り合うのが難しい。